

どきどき、ぼくの野外活動くバナナ最強く

小・5 元尾 紅太

夏休みに入っすぐ、ぼくは、野外活動できららの里へ行きました。何日か前から不安でそわそわして、夜ねむれませんでした。ぼくには、不安なことが二つありました。一つ目は、バスで二時間、しゃべってはいけないことでした。二つ目は、一人でとまるのが初めてなので、夜ねむれないかもしれないことでした。鳥居先生に相談したら、

「小さい声でそつとしゃべるのはいいよ。」

と言ってくれました。それに、大好きな本を五さつ、お守りに持っていくことも許してもらえて力になりました。

きららの里までの道のりは、山道が多くてかなりつらかったです。でも、音楽を流してくれたら、少しはおしゃべりできたりしたので、なんとかたえられました。

着いて初めに行ったことは、ベッドメイキングです。苦労しましたが、上手にできてよかったです。夕食作りは、自分達で火をおこすところからです。その日はすごくしつ度が高く、ガスバーナーを使っても全然火が着かずにとても苦戦しました。やつのことであけた火で作ったご飯は、とてもおいしかったです。

次に、キャンプファイヤーをしました。光のまいの前にやったスタンプが、とてもおもしろかったです。その中で一番おもしろかったゲームは、ウインク殺人事件です。ルールは、おにを決めてその

おににウインクされたらすわって、おにではない人が犯人を当てるゲームです。みんなが、

「アンコール、アンコール。」

と言ってもり上がりました。光のまいでは、光ったトーチがきれいでげん想的でした。みんな上手にできていて、今まで練習してきてよかったなと思いました。

その次に、おふろに入りました。火おこしやキャンプファイヤーのつかれがとれて気持ちよかったです。おふろから出ると、鳥居先生がバナナを用意して待っていました。そのバナナを食べると、あまりのおいしさにとび上がりそうになりました。しかも、ふろ上がりでおながすいていたので、よりおいしく感じました。あのバナナのおいしさはわすれられません。夜、新しいまくらで全然ねむれなかったけれど、ぼうつとしていたらいつの間にかねてしまいました。

二日目は、朝五時に起きて、今日やることの用意をして待っていました。部屋では一番に起きました。みんなが起き始めると、朝ごはんの時間です。ランチパックソース焼きそば味が気に入りました。みんなで決めたかいがあって、とてもおいしかったです。午前中は、ハイキングに行きました。原生林のことをいろいろ教えてもらったので、楽しかったです。やけに荷物が重いなと思っていたら、中から本が出てきてびっくりしました。お守りの本でした。○×クイズ大会もしました。きららの里が昔は小学校だったことも知りました。午後は、バーベキュー広場で五平もちを焼きました。ウインナー、ゼリー、焼きそば、パンとボリューム満点で、とてつもなくおいしかったです。食べた後は、フリータイムです。雨がふっていて、川で

遊ぶことができず残念でした。それでも、屋根付き広場で、ドッジボールやおにごっこをして遊んで、みんなの思い出が作れてよかったです。夜は、二日目で一番楽しみにしていたカレーライス作りです。おかわりするほどおいしくできました。

おふろの後は、楽しみにしていたバナナタイムです。みんな期待していたようで、バナナコールドがまき起りました。この日のバナナも最高でした。ぼくらは、ミニオンのようにもり上がりました。

二日目の夜、大問題が起りました。かみなりです。近くでドツカーンとぼく発したような音がひびきました。ぼくは、全くねむれず、先生たちがずつと側にいてくれました。はげましてくれたり、頭をなでてくれたりして、うれしくて泣いてしまいました。他の子は、うちの父ちゃんみたいないびきをかいてぼくすいすいして、うらやましかったです。

三日目、長かった野外活動も最終日です。料理長として、調理場のそうじをしたのが大変でした。もう帰れると思ったら、夜の大雨のせいでバスが一時間以上おくれました。その時間で、思いつくスケッチをかきました。ぼくは、マシユマロを焼いているところをかきました。はんの仲間五人で火を囲んでマシユマロを「やあ！」と焼いた場面が、とても印象に残っていたからです。マシユマロについた火を「フーツ。」とふき消して、パクつと食べます。最高に楽しい気持ちになって、ぼくにとって今までにない感覚になりました。

野外活動を終えて、ぼくは自信ができました。ぼくは、家で料理をしたことはありませんでした。野外活動に向けて、家庭科で練習してきて、本番でも自分の役わりを果たして、みんなと協力することができました。家族とはなれて一人でねむることができたことも

自信になりました。今度は、一人で静岡の母ちゃんの実家に行こうと思います。でも、きららの里では「どんぐりころころ」の気持ちと同じだったことを思い出します。やっぱりお家がこいしかつたです。家族のいるお家は、ぼくにとって一番安心できる場所だと、改めて感じました。大好きな本や、好きなおもちゃに囲まれていると、とても落ち着きます。だけど、そこから飛び出してチャレンジすること、ぼくにもできるんだと思いました。

これからも、苦手なことにも不安なことにもちよう戦っていくたいです。